



ルリーロ福岡通信

ラグビータウンプロジェクト推進係 75 - 3343

レポート全文
はこちら



ルリーロ福岡で学生広報を担当している久留米大学^{おやま}の小山りんです。7月号に引き続き、今月号では、地域支援^{かすき}に尽力する筑後信用金庫の元理事長・江口和規さんのインタビューをお届けします。筑後信用金庫は、これまでルリーロ福岡を多方面から支援しています。うきは市へ、そしてルリーロ福岡への想いをうかがいました！

ー筑後信用金庫とルリーロ福岡との出会い

「うきは市と筑後信用金庫が平成30年に連携協定を結び、様々な取組を行っていた中で、うきは市でルリーロ福岡が始動するという話を聞きました。ルリーロ福岡の社長である島川さんに、筑後信用金庫が開催する若手経営者研修会で、ルリーロ福岡についてお話をしていただいたことがきっかけで出会いました。」



ルリーロ福岡への思いを語る江口さん

ールリーロ福岡への想い

「通常であれば、母体となる企業がスポンサーになるのですが、母体を持たずに地域から支えてもらうという、日本では珍しい形態のラグビーチームで、選手の皆さんもこの地域の事業所に勤務しながら活動をする“地域密着型のラグビーチー

ム”というものを初めて聞いたので驚きました。ルリーロ福岡と筑後信用金庫、両者が行う地域密着型や地域活性化の取組で親和性が高く、それをラグビーチームがやっているところが、面白いと思ひ、力になりたいと思いました。」

ーうきは市への想い

「実は、私は生まれも育ちも今の住まいもうきは市なので、想いは強いですね。朝にバスで通勤することがあるのですが、ラグビー部員が自転車で一生涯懸命に通学しているのが微笑ましいです。何らかの形でうきは市に貢献して、少しでも役に立ちたい、スポーツを通してもっとうきは市を元気にしていきたいと思っています。」

「スポーツは人を育て、地域を元気にする力がある。地元出身者として若者のためにできることをしたい」と語る江口さん。現在、60名の部員が在籍する浮羽実業高校ラグビー部には、実家を離れて通学している生徒もあり、生徒たちの寮の確保が課題となっていました。江口さんは、廃業した市内の温泉施設の建物を活用できないかと提案し、寮として活用されることとなり、現在、36名の生徒たちがその寮から通学し、日々練習に励んでいます！

また、江口さんは、母体企業を持たず、地域の多くの企業と連携しながら活動するルリーロ福岡の姿勢にも深く共感されており、「これからも必要な支援に協力していきたい」と、力強い想いを語られていました。これからも、うきは市民の皆さんと関係団体とが一体となった、継続的な取組が期待されます！今月もお読みいただきありがとうございます！

女子ラグビーワールドカップ2025 パブリックビューイング開催！



VS



(日本 対 スペイン)

日程 9月7日(日) 料金 無料

時間 19:30 ~ 22:00頃 場所 るり色ふるさと館

初心者でもわかる！ルリーロ福岡の解説付き！

申込はこちら

